

新発売

ALA-Sシリーズのラインナップを拡充！ 低騒音で周辺環境に配慮した静かな作業を実現 静音型 低床エア式ガレージジャッキ

ALA-M-Sシリーズ

- ガレージジャッキ本体とエアポンプ構造を見直し、作動音を大幅軽減！
2t・3tに加えて、1.8t・2.1t・5tが新発売
- エアポンプの改良で作動時のエア消費量を30%カットし、省エネ・省コストに貢献



作動音30%カット	
静音型低床エア式 ガレージジャッキ (ALA-2M-S)	低床エア式 ガレージジャッキ (ALA-2M)
69db (無負荷/負荷)	90db (無負荷/負荷)
※ガレージジャッキ本体後方1m・高さ1mにて音響測定 ※音量は測定する環境で変化します	



近日発売

静音タイプの大型車用ジャッキを標準化 余裕の能力と超低床で幅広い車種に対応！ 静音型 低床エア式ガレージジャッキ

AJ-Sシリーズ

- 従来機の性能はそのままに、静音性を向上させたAJ-Sシリーズを標準化
- コンパクトボディで操作性が向上！
移動が容易で小回りが効くため、車両へのセッティングがラクにできます



新商品

ツインパワーシリーズの特長と機能をそのままに受け継いだ テストリフトから洗車対応仕様が新発売！ 洗車対応仕様テストリフト

WTSL15

- 受台は防錆処理を施し、サビに強く耐久性に優れた垂鉛メッキ仕様
- 復動シリンダーの採用で上昇時・下降時共に油圧がかかり、安定した動作を確保。リフトの自然降下を防ぐための安全装置として、手動式の降下止めピンを標準装備



保守点検のおすすめ

ANZEN製品を長くご活用いただくため、保守点検サービス（有料）のご利用をおすすめします。お近くの営業マンまでお問い合わせください。

24時間サービス体制

ANZEN製品を「安心」してご利用いただくために、24時間サービス（ボイスワープ）対応をいたしております。営業時間外、および休日におけるサービス電話受付ができます。担当の営業所の電話に連絡していただければできる限り迅速な対応をいたします。

ANZENカスタマーサービス

0120-01-6361 当社の製品およびサービス、その他に関するお問い合わせは左記までお気軽にどうぞ。
受付時間：月～金（AM9：00～PM5：00）

ANZENホームページ

<http://www.anzen.co.jp> ホームページ“ANZEN Web”ではANZENの最新情報を提供しています。

●発行所／安全自動車株式会社 マーケティング部 東京都港区芝浦4-16-25 ●ANZEN NEWS 65号（2014年10月1日発行）

2014

Autumn
VOL.65

自動車整備の最新がわかる
ANZEN NEWS

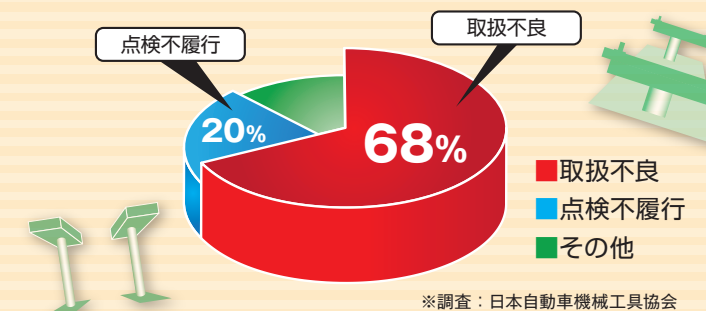


CHARGE

リフトの定期メンテナンスを行いましょう！

2013年に発生した自動車整備機器の事故件数は47件。発生件数のうち最も多かったのはリフト事故の25件で、4年連続の増加となりました。事故要因は**取扱不良**が68%、**点検不履行**が20%と続きます。事故が起きた25件のうち、24件はリフトの保守点検契約も日常点検も実施されていませんでした。事故が発生したリフトは、使用年数3年未満で11件が発生するなど、機器導入直後における事故発生率が半数弱を占めます。

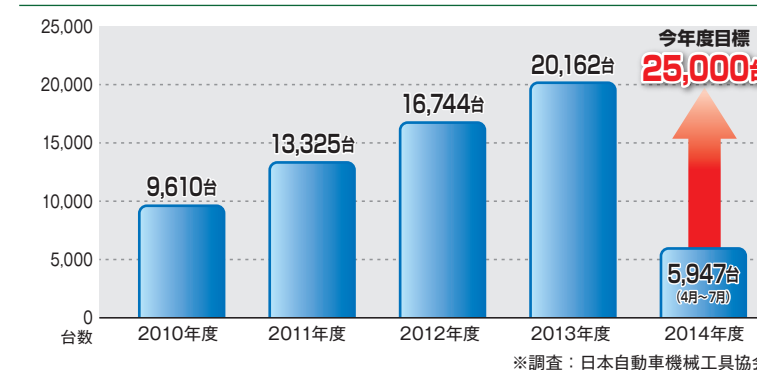
リフト事故発生推定原因



約900人のリフト点検資格者が全国のリフト点検を実施

リフト事故ゼロに向けて、日本自動車機械工具協会は、業界を挙げてリフト点検の啓発に力を入れています。2013年度のリフト点検資格者による点検台数は、12年度比2割増の6033事業所、2万162台で、今年度はこれをさらに上回る**2万5千台を目標**としています。依然としてリフト事故が後を絶たないことから、日本自動車機械工具協会は今年度よりリフトの正しい使い方、点検の重要性などを啓発するビデオを作成し、事故原因を分析、再発防止につなげていく方針です。

リフト点検実施台数



安心・快適な作業環境をご提供するANZENメンテナンスメニュー

ANZENでは、整備機器を“長く”“安全に”“安心して”お使いいただくためのメンテナンスメニューを展開しています。定期メンテナンスは、事故や故障の防止、機器の精度や能力の維持など、整備において重要な役割を担っています。保守点検や予防整備で突発的な機器のトラブルを防ぐことは、**安全性・作業性の向上**だけでなく、**メンテナンス費の削減**にもつながります。まずは機器の状態をチェックしてみませんか？ANZENは充実のサービス体制でお客様をサポートしてまいります。

このような症状はありませんか？

- ✓ チェーン・ワイヤーの錆や腐食
- ✓ 油圧ユニットやシリンダーからオイル漏れ
- ✓ 安全装置に異常（異音）
- ✓ 受ゴムやアタッチメントの変形や摩耗

日常点検をサポートするANZENのメンテナンスメニュー

保守点検

日常点検ではチェックできない細部まで点検・調整を行います。

予防整備

トラブルが発生する前に消耗品や部品を定期的に交換しましょう。

リフト点検は1年に1回行いましょう！
「リフト点検資格者」がプロの目でしっかり診断します！



株式会社 はとバス

東京都大田区平和島5-4-1
Tel 03-3761-8177

知りたい!
元気の工場の秘密

■オープン日：2014年5月1日 リニューアル・新設

■従業員数：1,100名(車両整備部 整備課32名うちサービススタッフ23名)

■店舗概要：多くのお客様に愛され続け、2014年に65周年を迎えた「はとバス」。今回訪問したのは、そんな「はとバス」の安全走行を影で支える株式会社はとバスの自社整備工場です。安全と快適さを追求される観光バス整備で築き上げたトップレベルの技術を活かし、民間車検工場としても機能している同社。車検から板金・塗装までトータル整備できる工場として、多くのバス・トラックユーザーからの支持を集めています。工場リニューアルを機に、最新鋭機器を取り揃え、さらにパワーアップした(株)はとバス自動車整備工場の今後の展望についてお話を伺いました。



執行役員 観光バス事業本部
車両整備部長
松井 洋一 様



車検・整備、板金・塗装までトータルに対応!バス整備のプロフェッショナル工場

■バス整備のプロフェッショナルがあらゆる整備にも確実に対応

東京観光といえば「はとバス」。鮮やかな黄色の車体が広い敷地内にずらりと並ぶ風景は圧巻そのものです。

現在、同社のバス139台は、全て本社敷地内に併設された自社整備工場にて整備されています。2013年度の年間車検入庫台数は自社車両と他社車両を合わせて932台。他社からのバス・トラックの入庫が非常に多いのも特徴的です。松井部長に同社独自の強みについてお話を伺いました。

「トラックに比べてバスのメンテナンスは複雑ですし、特別仕様のバスは整備も特殊ですのでメンテナンスが慣れている当社に持ち込まれるケースが多いのではないのでしょうか。バスはメインエンジンの他にエアコンの整備も車検同様年1回行います。そのために修理・メンテナンスするための工場として認定取得を得る必要がありますが、当社はそのためデンソーの研修を受け、特約店として認定されています。エアコンの整備は車両から取り外す重整備もあり、コンプレッサーやブロアモーターのオーバーホール、温水ポンプの交換なども行っています」と、バスを知り尽くしたプロフェッショナル集団の整備工場だからこそその技術が光ります。また、同社では窒素充填装置ナイトロタワーを活用し、車検入庫したお客様にタイヤの窒素充填を無償で行なっています。「窒素充填してから偏摩耗も減り、空気圧調整の頻度も少なくなりました。社内のドライバーにも喜ばれています」(松井部長)と、メリットのあるサービスとして好評のようです。



車両上部にあるエアコンの整備は年1回車検と同様に実施。
高所作業のため、安全対策にも注力



■作業の効率化に大いに貢献するリフト機器

リニューアルした整備工場は清掃が行き届き、クリーンな印象を見る人に与えます。整備工場は7ストールからなり、別棟に板金・塗装ブース、大型車用門型洗車機が完備され、トータルサービスを提供する万全の環境が整っています。「10社ぐらいの整備工場を見学し

た」と、機器選定にあたって熟考を重ねたという松井部長。実際に導入した機器の導入理由や使用状況についてお聞きしました。「“ツインパワーリフト”は以前から使用していたので、効率化に富んだリフトであることは認識していました。主に車検整備やエンジンの脱着作業に使っています。初導入となる“2分割フロアリフト”はメカニックからも高評価ですね。主にオイル交換、クラッチなどのメンテナンスに使っています。クラッチのメンテナンスにおいては従来の3分の2の時間に短縮でき、大幅な作業の効率化につながっています」(松井部長)。



同社初導入となる“2分割フロアリフト”。
下回りのクイック整備や重整備に大活躍!

■環境配慮やメカニックの作業改善を考え、高効率機器を積極導入

大型車整備において特にネックになる廃油処理は、集中吸引システム“バキュームセンター”がまとめて解決。同社では、オイルパンに装着した専用の“Qドレンプラグ”から廃油をワンタッチで直接吸引し、最終廃油層まで圧送しています。このシステムの導入によって、オイル交換にかかる時間が半減したとのこと。今後、保有車両すべてに“Qドレンプラグ”を装着し、より一層の効率化を図る方針です。この他にもDPRに付着したダストの除去に最適な“エアエレメント&DPFクリーナー吸塵王”を導入。「今まではエレメントを外に持ち出してダストを除去していましたが、コンプライアンスの観点からも導入を決めました。エアを吹き付けると同時にダストの回収ができ便利ですね」と、松井部長。2020年の東京オリンピックは営業エリアで開催されることもあり、バス・トラックの整備需要も高まっていくことが予想される同社。「フォロー体制を強化していきたい」と松井部長の意気込みも上々です。たくさんのお客様の笑顔に乗せ、「はとバス」のイエローカラーが都内の道に色添えしてくれるのが非常に楽しみです。



車内のエアコンフィルターやDPF清掃に最適な“エアエレメント&DPFクリーナー吸塵王”



圧巻のスケールを誇る塗装ブース。
板金ストールも完備し、軽補修から大故障まで対応

株式会社ホンダカーズ岐阜 Honda Gloss 岐阜 各務原センター

岐阜県各務原市金属団地141
Tel 058-371-8161

いま注目!
のショップ訪問

■オープン日：2014年5月8日(木)新設オープン

■従業員数：15名(うちメカニック9名)

■店舗概要：販売店における整備負担を軽減させ、お客様の囲い込み強化や高品質なサービスを提供していくために5月8日に新設オープンを迎えたHonda Gloss 岐阜・各務原センター。ホンダカーズ岐阜の営業所は15拠点あり、各拠点で行ってきたアフターサービスに関わる作業を軽減し、よりお客様に寄り添ったサービスに特化することと効率化を考えてオープンしました。同センターは新車の出荷前検査・用品取り付け・納車前整備だけではなく、塗装ブースや調色用ブースなどの中古車の再販に向けて下取りした車両の軽補修を行う設備も整っています。総勢15名の従業員は、協力会社などのスタッフも共に働くため、幅広い分野に対応します。今回は同センターがオープンするにあたってのこだわりをお伺いしました。



センター長
吉田 基次 様



岡部 好伸 様

納車前整備や板金・塗装まで!安心と満足を新車と共にお客様へご提供!

■お客様にも作業者にも喜ばれる強いこだわり

同センターでの作業は新車の出荷前点検、用品取り付け、納車前整備の他にもボディーコーティング、加修(塗装などの作業)、社外品(非ホンダ純正品)の取り付けなどを行います。出荷前点検はメーカーから送られてきた車両のキズや仕様を確認します。作業ピット数は用品取り付け5ピット、ボディーコーティング2ピット、加修(修理)2ピット、完成検査2ピットとPDIラインからなります。すべてのピットにはエアコンが設置されているため、作業者が働きやすい環境づくりもこだわりのひとつです。新車がカーメーカーから同センターに直送され、販売会社の拠点を通じてお客様に引き渡されるので、拠点にもお客様にも納得していただけるような整備に注力しています。



肉眼では気づきにくい小さなキズまで、
光をあてて全体をくまなくチェック

■多岐に渡る用品取り付けは品質重視

お客様からの様々な要望にお応えする用品取り付けは、メーカーから新車が配送され、オーダーされた用品の取り付けを行い、完成車両を各拠点へお届けいたします。PDI機能の役割を果たしているため、納車前整備はどの車両も必ず行います。「お客様の用品取り付けのオーダーはエアロパーツやカーナビゲーション、アルミホイール、バイザー、フロアマット、イルミネーション、デカールシートなど多岐に渡っています。現在はお客様からイルミネーションやボディーコーティングの要望が増えています。大切な車両を預かって作業をしますので、各営業所がお客様から評価されるよう、細心の注意をはらって作業に取り組むことを心がけています」と、岡部さん。品質を重視している姿がお話から伺えました。



キズ・汚れを防止し、艶を出すボディーコーティング。
現在、お客様からの要望が増えています

■様々な人達への想いをこめて採用した設備機器

センターを完成させるにあたり、各拠点から新車を供給しお客様からの要望に応えるため、様々な設備機器を導入しました。塗装ブース“CAB-11”と調色用ブース“Matching Master”は中古車の軽補修や塗装作業をする際に使用しています。車検機器の“スクリーン方式手動ヘッドライトテスター”や“サイドスリップテスター”は加修や用品を取り付けた車両が工場出荷時の数値を保っているかを確認する際に使用しています。タイヤチェンジャー“ヨーロッパタイヤチェンジャー HP”とバランサー“リブラック234H”は低扁平タイヤやランフラットタイヤに対応するための高品質な機器を採用しました。リフトは以前から使用していて使い勝手の良かった“ファンタスリフト”。「サスペンション交換やアルミホイールの交換作業、防錆処理作業に使用しています。下回り作業をする時に便利でしたので、導入することを決めました」と吉田センター長。



タイヤ交換やアルミホイール交換など
様々な下回り作業に便利な“ファンタスリフト”

PDIチェックの前準備で使用する門型洗車機“ジスペクト”は作業の効率化を考慮して動作を変更するなどの工夫もしています。「まずは各拠点がお客様から喜んでいただけるよう頑張っていきたいですね」と、力強く語る吉田センター長。拠点やお客様に対する想いが、今後の更なる高品質サービスの提供に繋がっていくことでしょう。



室内設置のため、最短レール長7.8mの門型洗車機
“ジスペクト”を採用。作業者への騒音も考え、
静音型ドライブシステム“クリスタルイン”も導入



塗装ブース“CAB-11”。中古車の再販をする
ために下取りした車両の塗装など塗装関連の
作業は全てここで対応